

つちざきしんめいしやむなふだるい  
土崎神明社棟札類

- 1 種 別 有形文化財（古文書）
- 2 名称及び員数 土崎神明社棟札類 31点
- 3 所 在 地 秋田市土崎港中央三丁目9番37号
- 4 所 有 者 神明社
- 5 年 代 江戸時代～昭和時代（慶安3年(1650)～昭和62年(1987)）
- 6 材質・寸法等 別紙のとおり
- 7 説 明

本資料は、土崎神明社に伝存する、江戸時代前期から昭和時代にわたって作成された棟札及びそれに類する木札の一群である。

土崎神明社は、本県域における主要な港町として栄えた土崎（現秋田市土崎）の総鎮守であり、元和6年(1620)の創建と伝えられる。江戸時代以来、現在まで篤く地域の信仰を集め、その祭礼は土崎神明社祭の曳山行事として広く知られている。同社には、慶安3年(1650)から昭和62年までの31点の棟札類が現存する。これらは、社殿及び鳥居の建替や修理に伴う棟札のほか、扁額や神鏡など什物類の寄進に際して作成された同じ形式の木札からなる。いずれの棟札類にも年号が記され、その作成年は明らかである。

社殿の建替や修理に伴う棟札のうち、慶安3年から大正12年(1923)までのものは、おおむね20年ごとに作成されたものが欠失なく残っている。かつて土崎神明社が遷宮を行っていたことは文献史料や社伝から知られていたが、実際に約20年ごとの社殿の建替や修理により遷宮が行われていたことを本資料は裏付けている。

また、それぞれの棟札類には願文や神仏名、呪符など奉納祈願に関する文言や記号に加えて、願主である廻船問屋や庄屋、町代などの町役人、建替や修理に携わった大工・鍛冶・金具師・石工・塗物師などの職人、神職や別当僧などの人名が記されている。棟札類を通観すると、これらの記載内容やその書式、木札の形状が時代の経過とともに変化する様子も見取れ、文献史料には記されることの少ない、地域における信仰や作事の実態及びその変遷をうかがうことができる。

本資料は、遷宮の形式を伝える棟札として一括性が高く、地域の歴史を解明する上で重要な一次資料として、高い学術的価値を有しており貴重である。

## 参考

秋田市指定有形文化財（歴史資料）「土崎神明社棟札」 平成30年(2018)3月20日指定

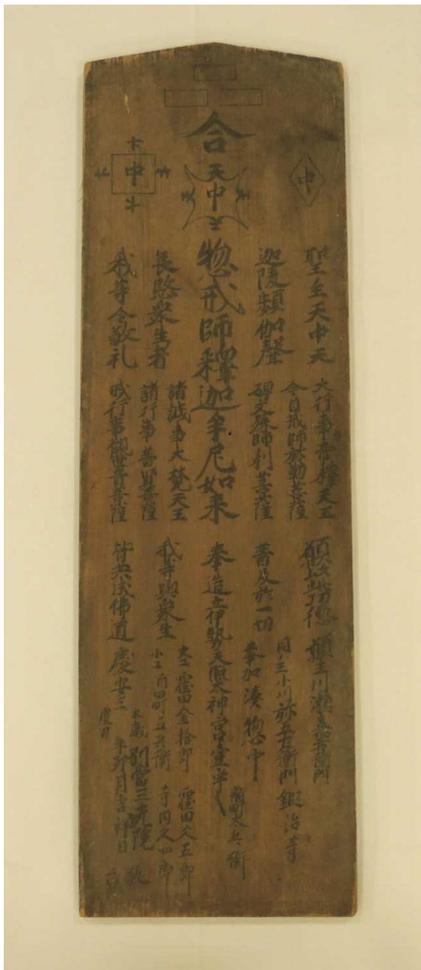
## 参考文献

秋田市 『秋田市史』第15巻 美術・工芸編 平成12年(2000)3月

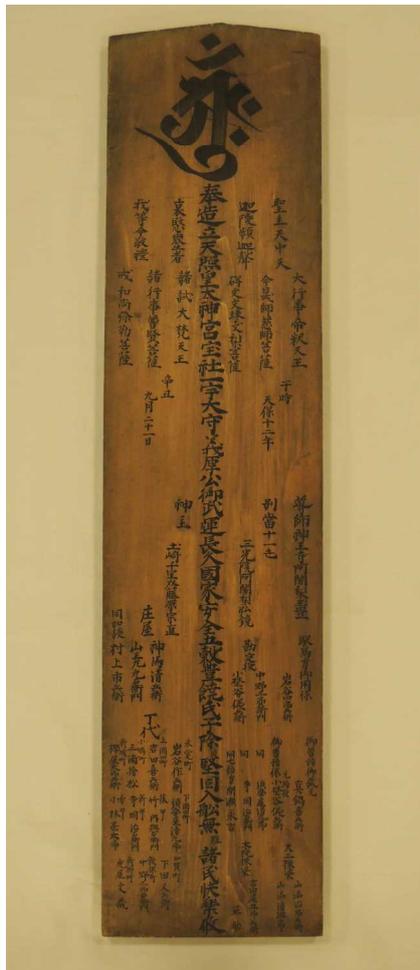
秋田市 『秋田市史叢書』3 美術・工芸 史料と追記 平成13年(2001)3月

秋田市教育委員会 『土崎港祭りの曳き山行事』 平成5年(1993)3月

秋田市土崎出張所 『土崎港町史』 昭和16年(1941)12月



慶安3年(1650)棟札 表面



天保12年(1840)棟札 表面



天保12年(1840)棟札 裏面



棟札類集合